

■渡辺洪基 日本初の妻女帯同の外交官。帝国大学初代総長，多くの団体の役員を引受け，明治国家の形成に貢献。

わたなべこうき

・ ・ ・ ・ ・ 1847＝ 越前国南条郡府中善光寺町で，蘭方医家渡辺静庵の長男に生まれる。母は葛埜(つたの)。

北斎没 ・ ・ ・ 1849＝ 2歳：天然痘大流行に，福井藩で開業中の笠原白翁に父が協力し，姉とともに，藩で初めての種痘を受ける。

尊徳報徳論 ・ 1851＝ 4歳：弟新吾(悌二郎，のち明治・大正天皇侍医となる)が誕生。

ペリー来航 ・ 1853＝ 6歳：
三弟忠三郎(のち陸軍少将)が誕生。

松下村塾 ・ ・ 1856＝ 9歳：弟とともに，藩校(立教館)に入り，孝一郎と名乗る。かたわら，森余山の{尚義堂}に通ううち，

森余山の影響で，江戸に出ようとするも，挫折し帰郷，
桜田門外変 ・ 1860＝13歳：
福井の大岩主一塾に入門，その勧めで，藩医学校{济世館}に入学し，蘭語習得，

禁門の変 ・ ・ 1864＝17歳：大岩主一継いだ本立の紹介で，下総国佐倉の佐藤尚中の医塾の講師となって，英語の重要性を知り，
薩摩藩士密航 1865＝18歳：末弟信四郎(のち鉄道技師)が誕生。江戸に出，開成所に入り，箕作麟祥について英語を学ぶうち，その勧めによって福沢諭吉塾に入門，英語力を飛躍的に向上させ，

薩長同盟 ・ ・ 1866＝19歳：福沢の推挙により，幕府医学校の句読教師となるが，

大政奉還 ・ ・ 1867＝20歳：母が死去。大政奉還となり，

明治維新 ・ ・ 1868＝21歳：父が再婚。頭取松本良順に従い会津に行き英学校開設，一旦江戸に戻った後，米沢で英学校を開くが，

戊辰戦争終 ・ 1869＝22歳：藩降伏で，江戸に戻り新政府へ建白書を提出。注目され，大学南校少助教に挙げられ，洪基と改名。

初の日刊新聞 1870＝23歳：中助教に昇任後，外務大録に転じるが，"武生騒動"の嫌疑で福井送還となるも，才能惜しまれ復帰，

廃藩置県 ・ ・ 1871＝24歳：二等書記官として，岩倉遣外使節に随行するが，

学問のすすめ 1872＝25歳：日米条約改正交渉に反対して帰国し，琉球使臣接待役を命じられる。庄司貞子と結婚。

明治6年政変 1873＝26歳：*オーストリア・イタリア両国公使館付を命じられ，妻同伴で赴任，日本外交官の妻女帯同の嚆矢となる。

佐賀の乱 ・ ・ 1874＝27歳：オーストリア臨時代理公使。

帰国命受けると，

三つの内乱 ・ 1876＝29歳：妻を先に帰国させ，単身で英・独・露・和・トルコなどを視察して，帰国。外務省記録局長心得から，

西南戦争 ・ ・ 1877＝30歳：芝に屋敷購入し移住，父も同居。外務権大書記官となり，内国勸業博覧会事務局御用掛を兼務。

大久保暗殺 ・ 1878＝31歳：外務大書記官兼太政官大書記官となり，学習院次長を兼ねる。法制部で集会条例を起案したほか，訥弁ながら世話好きで，貿易団体{万年会}を組織し，

沖縄県編入 ・ 1879＝32歳：東京地学協会を創立して，幹事に就いたほか，晩年には，多くの団体の役員や長を引受けることになる。

・ ・ ・ ・ ・ 1880＝33歳：父が死去。外務大書記官専任となり，「外交志略」の編集に着手。

明治14年政変 1881＝34歳：「外交志稿」の編集終了を機に一旦，官を辞し，誘いに乗った原敬・花房と，全国一周紀行した後，

新体詩抄 ・ ・ 1882＝35歳：元老院議員に任じられ，「政治学校設立」を建議，「国立銀行条例改正案」を提出，

岩倉具視没 ・ 1883＝36歳：

秩父事件 ・ ・ 1884＝37歳：工部少輔に任じられると，「工部省職務整理案」を上申するなど，どの職でも，管轄部門の改善に尽力。

内閣発足 ・ ・ 1885＝38歳：東京府知事を経て，

帝国大学始 ・ 1886＝39歳：*帝国大学総長兼法科大学長となり，工科大学長事務取扱も兼務，民間からの資金集めに奔走，

国民之友始 ・ 1887＝40歳：伊藤首相官邸での仮装舞踏会での様が話題となる。文官試験局長官兼ね，教員検定や英文図書審査などの委員長も引受ける。

初の対等条約 1888＝41歳：私設で開校した工手学校(のちの工学院大学)の特選管理長に就任。明治天皇が帝国大学に御臨幸。

帝国憲法発布 1889＝42歳：東京倶楽部副総裁。大日本帝国憲法の発布記念章を受ける。東京市参事会員として，銀杏マークを提案。

帝国議会始 ・ 1890＝43歳：学事巡視のため愛知・石川・福井三県訪問。工学会副会長。特命全権公使に転じ，ウィーンに駐節。

大本教 ・ ・ ・ 1892＝45歳：*本人不在のまま，衆議院議員に立候補して当選し，帰国。国民協会に加わり，衆議院議長選を星亨と争うも僅差で敗れると，実業界に転じ，両毛鉄道社長となり，関西鉄道・京都鉄道などの役員，

日清戦争始 ・ 1894＝47歳：

白馬会 ・ ・ ・ 1896＝49歳：中央生命社長となり，北浜銀行頭取・芝銀行などの役員，

八幡製鉄始 ・ 1897＝50歳：貴族院議員に勅選。帝国商業銀行などの役員を兼任。

子規句歌革新 1898＝51歳：妻が死去し，悲嘆に暮れる。

Bushidou ・ ・ 1899＝52歳：イタリア皇帝より王冠勲章。この頃，福井県内の小中学校で講演し，学童を鼓舞激励。

ビノ国産化 ・ 1900＝53歳：男爵堤功長長女松子と再婚。伊藤博文の立憲政友会創立に参加する一方，鉄道規定取調委員，帝国鉄道協会副会長。統計協会，工学会，殖産協会，富士観象会などの会長に就き，"三十六会長"と呼ばれたが，慢性腎炎のため入院，長女が誕生，勲一等瑞宝章を賜わり，帝国大学名誉教授の称号を受け，没した。

田中正造直訴 1901＝54歳：